

平成25年度仙台市防災会議
第2回原子力防災部会・第2回作業部会 合同会議
議事要旨

- 1 日時 : 平成26年1月31日(金) 14:00~14:50
- 2 場所 : 市役所本庁舎第1委員会室
- 3 出席者 : 当資料末の出席者名簿参照
- 4 資料 : 資料1 パブリックコメント実施結果
資料2 地域防災計画【原子力災害対策編】(修正案)の策定について
資料3 地域防災計画【原子力災害対策編】中間案からの修正事項 新旧対照表
資料4 地域防災計画【原子力災害対策編】(修正案)

5 議事要旨:(敬称省略)

(1) パブリックコメント実施結果について

部会長)

ご意見・ご質問がないようですが、本日説明したパブリックコメントへの本市の考えについて、資料1のとおりでよろしいか。

(全会一致で異議なし)

(2) 地域防災計画【原子力災害対策編】(修正案)について

増田作業部会長)

先ごろ宮城県が原子力災害対策の防災訓練を実施したという報道があったが、今後対策を具体的に詰めていく中で、この計画に基づく仙台市の防災訓練の展望があれば教えて欲しい。

事務局)

今後、本計画に基づいて、情報収集・伝達や退避・避難等の防護対策を具体化していくことになるが、防災訓練については、対策の具体化を踏まえながら計画していきたい。まずは対策の入り口となる情報収集・伝達の訓練から実施することになると考えている。

増田作業部会長)

おそらく、実際にやってみると、計画に書いてある通りにできないこと等いろいろな問題が明らかになってくると思われる。計画の問題点として一番最初に出てくるのが訓練の時だと思うので、是非、具体的に進めて欲しい。

部会長)

本市は今回初めて原子力災害対策編を策定したが、地方自治体の対応という面でお感じになったことなどあれば伺いたい。

石川委員)

福島第一原発の事故の後に原子力災害対策編を作成することになった地方自治体はどこも苦勞している。宮城県が市町村の良いお手本となる計画を作成しているということも影

響していると思うが、国の指針等の今後の改訂を踏まえた継続的な見直しを前提として、現段階で仙台市の計画は十分な内容になっていると判断できると考えている。

部会長)

児童・生徒の安全を確保するという観点からお感じになったことなどあれば伺いたい。

加藤委員)

現時点の計画としては良いものになっていると考えられる。今後、学校と連携して対策を進めて欲しい。

石井委員)

モニタリングポストは、いくつくらい設置する予定か。モニタリングポストを設置してあれば、瞬時に放射性物質が到達したことを知ることができる。しかし、1、2か所設置するだけでは意味がない。今後モニタリング実施要領を作成するということだが、自動計測のためのモニタリングポストをどのようにどれくらい設置するかを計画にある程度記述しておいた方が良い。

事務局)

自動計測については、市域を網羅するようにモニタリングポストを設置する方向で考えているが、その設置数や場所については、今後、実施計画をつめていくなかで決めていき、その内容を踏まえて必要に応じて計画に記載していきたい。

石井委員)

是非、そうしてほしい。事故が起こってから計測し始めても意味がない。

増田作業部会長)

モニタリングポストの設置費用は概算で一か所あたりどれくらいかかるのか。

事務局)

昨年度に宮城県から頂いた情報では、数千万円かかるということであったが、その後、情報収集したところ、その後、様々な機器が開発されたこともあり、機能を絞れば費用を抑えられることがわかってきたので、そのような情報を勘案しながら検討していきたい。

石井委員)

東北大学でも簡易な機器の開発を進めているが、計測結果を通信で送れるもので1機200万円から300万円程度で設置できる。

事務局)

原発の周囲に設置している高い放射線量を測る機器は数千万円ということを知っている。仙台市の場合には、そのような機器を設置する必要は無いことから、石井委員のご指摘のようなクラスの機器で十分と考えているので、検討の際には相談にのっていただきたい。

部会長)

宮城県の立場からのご意見等があれば伺いたい。

阿部委員)

良く検討していると思う。

モニタリングポストについて補足すると、県が女川原発の周辺に設置しているモニタリングポストは、精度良く低線量から高い線量まで計測できることやバックアップ電源等の様々なシステムを設置しているため、相対的に高価になっている。どのレベルの機器を設置するのが適当であるかを検討した方が良いと思われる。県では文科省の補助金等を活用して全市町村に一か所ずつ設置して県内の放射線量の全体的な把握を常に行っている。震災後は衛星回線等を活用してデータバックアップシステムも強化しており、インターネットを通じて随時データを参照できるようになっている。

子供たちの安全確保については、先ごろ実施した防災訓練でも、県民の関心が非常に高い。情報を頂く又は伝えるということが生命線であると認識している。今回の訓練では教育庁を通じて全ての県立学校に参加してもらい情報伝達訓練を実施したが、高校がほとんどであり、今後は市町村と協力しながら、市町村立の小中学校へも拡大する必要があると考えている。そのような中で明らかになった新たな知見については仙台市と共有化していきたい。

部会長)

本日いくつかご指摘をいただいたが、本日説明した修正案をもって防災会議での審議に付したいがよろしいか。

(全会一致で異議なし)

以上

平成25年度 仙台市防災会議
第2回原子力防災部会・第2回作業部会 合同会議
出席者名簿

原子力防災部会

(順不同)

| 氏名 | 所属・役職 | 出席者 |
|------------------------|---------------------------------|-----|
| 石井 慶造 | 東北大学リサーチプロフェッサー | ○ |
| 石川 一郎 | (公財)原子力安全技術センター防災技術部 部長 | ○ |
| 加藤 真由美 | 前仙台市 PTA 協議会副会長 | ○ |
| 菅 俊秀 (代理) 行成 博巳 | 日本放送協会仙台放送局長 日本放送協会仙台放送局放送部長 | 代理 |
| 曾根 秀昭 | 東北大学サイバーサイエンスセンターネットワーク研究部 教授 | ○ |
| 阿部 勝彦 | 宮城県環境生活部原子力安全対策課長 | ○ |
| 千田 浩一 | 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 教授 | ○ |
| 及川 昌洋 | 東北電力株式会社仙台営業所長 | ○ |
| 増田 聡 | 東北大学大学院経済学研究科 教授 | ○ |
| 松本 淑子 | 仙台市民生委員児童委員協議会 理事 | ○ |
| 水田 恵三 | 尚綱学院大学総合人間科学研究科長 教授 | |
| 宗片 恵美子 | NPO 法人イコールネット仙台 代表理事 | |
| 和田 幸一郎 | 仙台管区气象台総務部 危機管理調整官 | ○ |
| 藤本 章 | 仙台市副市長(部会長) | ○ |
| 佐藤 孝好 | 仙台市危機管理監 | ○ |
| 高橋 宮人 | 仙台市健康福祉局長 | ○ |
| 大友 望 | 仙台市環境局長 | ○ |
| 上田 昌孝 (代理) 大越 裕光 | 仙台市教育長 仙台市教育局理事 | 代理 |

作業部会

(順不同)

| 氏名 | 所属・役職 | 出席者 |
|--------|-------------------------------|-----|
| 石井 慶造 | 東北大学リサーチプロフェッサー | ○ |
| 石川 一郎 | (公財)原子力安全技術センター防災技術部 部長 | ○ |
| 加藤 真由美 | 前仙台市 PTA 協議会 副会長 | ○ |
| 櫻庭 達幸 | 東北電力株式会社火力原子力本部原子力部副部長 | ○ |
| 行成 博巳 | 日本放送協会仙台放送局放送部長 | ○ |
| 曾根 秀昭 | 東北大学サイバーサイエンスセンターネットワーク研究部 教授 | ○ |
| 阿部 勝彦 | 宮城県環境生活部原子力安全対策課長 | ○ |
| 千田 浩一 | 東北大学大学院医学系研究科保健学専攻 教授 | ○ |
| 増田 聡 | 東北大学大学院経済学研究科 教授(作業部会長) | ○ |
| 松本 淑子 | 仙台市民生委員児童委員協議会 理事 | ○ |
| 水田 恵三 | 尚綱学院大学総合人間科学研究科長 教授 | |
| 宗片 恵美子 | NPO 法人イコールネット仙台 代表理事 | |
| 和田 幸一郎 | 仙台管区气象台総務部 危機管理調整官 | ○ |